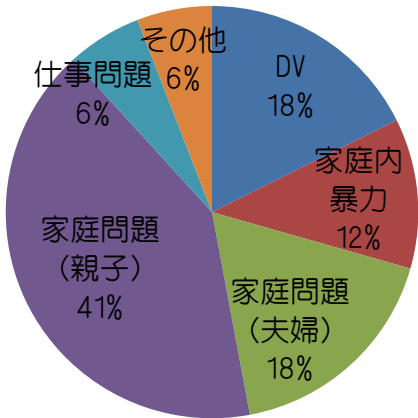


【2月の相談レポート】

2月は仙台支部から



↑ 図1. 2月に寄せられた相談案件割合(仙台支部)

図2. 読売新聞(2013年3月6日) →

仙台支部には、歌舞伎町の駆け込み寺と同様、DV、家庭内暴力、引きこもり、家族問題などの相談案件が多数寄せられています。それらの問題の中には、東日本大震災が直接的・間接的な原因となっているものがあります。それが仙台支部の特色です。

被災地からの相談に注目してみましょう。仮設住宅でのストレスがDVや家庭内暴力を引き起こしてしまった、という相談。原発の放射能に対する(夫婦間の)危機意識のずれ違いから「離婚と引っ越しを考えている」という女性からの相談。震災当日、津波に飲み込まれていく人々を目の当たりにし、いま現在も眠れない日々が続いている、という相談。

被災地を訪れた人からの相談もあります。東京で仕事を探していたある男性は、人材派遣業者に「被災地に解体工事の仕事がある」と誘われて被災地へ。しかし、住宅の準備などにかかる手数料として業者に預けていた大金を騙し盗られてしまいました。所持金も住むところもない。その男性は仙台支部に駆け込んできました。

震災がきっかけとなって発生したとらえることのできる生活トラブルや心の問題。それらは震災の二次被害であり、そこで必要とされることの多い仙台支部は「二次被害の駆け込み寺」ともいえます。被災者および被災地でトラブルを抱えてしまった人々を支援し続けること、それが仙台支部の重要な役割のひとつです。

悩み事や困り事があったら公益社団法人日本駆け込み寺へ。ご相談は、以下の電話番号からどうぞ。

◆新宿歌舞伎町駆け込み寺：03-5291-5720

◆仙台国分町駆け込み寺：022-395-7740

**東日本大震災が被災地は**  
育児を巡る困難が依然続いて  
いる。仮設住宅のストレスは  
大きく一人の子育てに苦  
勞して「親が多い」生活再  
建は難しい。子育ての現状や  
支援策を話し、課題を考える。

**手探りの子育て**  
大震災2年

宮城県仙台市内の仮設住宅「平原」で、妻33歳、3歳児の長男(3)の3人で暮らす。広さは部屋の幅で約29・7平方メートル。一室は茶の間として広く利用されている。「ここは仮設住宅だ」と、妻は苦笑を浮かべ、目を凝らす。妻は「ここは仮設住宅だ」と、妻は苦笑を浮かべ、目を凝らす。妻は「ここは仮設住宅だ」と、妻は苦笑を浮かべ、目を凝らす。

**隣から文句も…遊び場必要**

でストレスがたまる。隣の住人はRの約40平方メートル、夫と、小学生から歳までの娘3人。近くに遊ばせたい。子どもたちは学校から帰ると、機嫌よく遊ぶ。でも、隣の住人がいない。仮設住宅で「ここは仮設住宅だ」と、妻は苦笑を浮かべ、目を凝らす。

図2. 読売新聞(2013年3月6日)の記事内容の要約。仮設住宅のストレス、子育ての困難、被災地の現状などについて詳しく述べられている。